

Theme Symposium | 学校保健体育研究部会 | 【課題A】 大学体育の授業をいかに良質なものにするか

A feasibility of the Social Mission in University Physical Education, Sport and Health Sciences: the present from the perspective of historical changes

Chair: Koji Takahashi (Nagasaki University), Kaori Kimura (Tokai Gakuen University)

Tue. Sep 7, 2021 3:15 PM - 5:15 PM Room 5 (Zoom)

本シンポジウムでは、「大学体育の授業をいかに良質なものにするか」という課題を達成するために、3年間のテーマ「大学体育から提案する質の高い学校保健体育の提供、実現」を設定した。1年目は「歴史的変遷からみる大学体育の現在地」について確認する。1つ目は大学体育授業の制度や仕組みの変遷である。木内氏から、高等教育改革に伴う要請を受けて教養教育としての保健体育の授業がどのように実施され、大学体育に関わる知が集積されてきたのかについて検討して頂く。2つ目は大学体育授業の実践内容及び大学体育の教員養成の変遷である。金谷氏から、大学体育の独自性や可能性について検討し、大学教育における体育の教育的価値や大学体育に対する内外の評価を洗い出して頂く。3つ目は大学体育授業の運営及びそれを通じた教員の組織作りの変遷である。高村氏から、大学体育の運営や教育・研究を通じた養成の内容を、共通の知見として提出するために必要な事柄を示して頂く。以上の検討から、これまでの大学教育の制度や大学体育の実践によって積み重ねられてきた知を歴史的変遷から読み直し、現代社会に求められる大学体育のあり方について探究する。

3:55 PM - 4:35 PM

[学校保健体育-SA-2]Contents of university physical education and Changes in teacher training to teach these classes

*Mariko Kanaya¹ (1. University of Tsukuba)

<演者略歴>

筑波大学体育系准教授。鹿屋体育大学助手を経て2002年に筑波大学に着任。専門種目は体操競技。筑波大学に着任以降現在まで主に大学体育における実技授業を担当すると共に、2017~2019年度には博士課程（大学体育スポーツ高度化専攻）にも在籍し、自身の教育活動を学問的見地から分析することに継続的に取り組んでいる。

自身は大学体育で何を教えることができるのか、その目標を達成するためにはどのようなプログラムを構成すべきなのか、また受講生の学修効果をより高めるためにはどのような能力の向上に努めるべきなのか、さらにはそもそも大学体育の独自性とは何か…。これらは筆者がこれまで大学体育を担当する中で常に自問自答してきた問いである。

今回はこのような背景をもつ筆者が、自身が大学教員になるまでのプロセスや、大学体育で専門あるいは非専門のスポーツ種目を通して行ってきた教育活動、大学院において大学体育教員養成の一端に携わっている現状、さらには現職教員でありながら大学体育教員の養成課程で学んだ経験にもとづいて、大学体育の学修内容とその効果、そしてそれらを実現するための要因について検討した結果を発表する。この発表をきっかけに、体育の中核的な学修活動のひとつであるスポーツの運動学習に着目した場合の大学体育の学修内容とその効果がより広く理解され、それに関連して今後の大学体育教員の養成方法について議論を深めていければ幸いである。